



信田 久二郎 新潟県村上市

栽培のポイント

EMボカシとEM（有用微生物）を活用して有機栽培を4ha行っており除草対策にも成果をあげている。

概要

昭和62年、63年に村上市で比嘉教授の講演を聞き感銘を受けた。「ここは米の生産地だ、稲作でEMを活用してみてもどうか」と指導を頂き、農薬による体調不良もあり平成元年に30aから実施を始めた。1人で始めた自然農法だが生ゴミ活用者の拡大によりEM研究会が発足した。その中で自然農法栽培による水稻栽培仲間と平成7年に「ミジンコの会」を結成し平成12年に（財）自然農法国際研究開発センターで有機JASの認定を受けた。

圃場の課題と育土の方向

ほ場はEMとEMボカシを中心に施用し、出来るだけ自家製資材だけ使用し土壌の団粒化を進めている。収穫後に米ぬかをライムソーアで散布し、田植え時に有機資材を側条施肥で行っている。病害虫については、健康な育土を心がけ病害虫に侵されない稲作りを行っている。EMは荒代、植代前、田植え後、出穂の1週間前後に散布している。

耕起～作付けの準備

稲刈り後すぐに、稲ワラを全量ほ場に還元し米ぬかをライムソーアで散布後その年のほ場条件や雑草の生え方でプラウ耕またはドライブハローで耕起を行いオモダカ、ホタルイの抑草に努めている。

播種・育苗～定植

栽培品種はコシヒカリが主で、種粃は自家採種で行っており、育苗用土も自家製造を行っている。育苗は300mm×600mmの一般苗箱に70g（催芽粃）で播種を行い、32℃で育苗機に1日入れた後に育苗ハウス内にてプール育苗をする。

育苗期間を約40日とり田植え時には4～4.5葉で植付けを行う。

播種・定植後の初期の管理

荒代、植代かきは浅くならすだけを目標に行う。田植えは5月下旬に側条施肥田植え機械で有機物を散布しながら行う。

雑草対策

発生する雑草はコナギ、オモダカ、ホタルイであるがプラウ耕を行うようになってからオモダカ、ホタルイが減少した。以前は乗用除草機を使用していた時期もあったが現在は手による除草で済んでいる。

中間～後期の管理

中間管理については、中干しや間断灌水は行わず、出穂は8月上旬、落水は8月末に行う。

病害虫の管理と対策

特に対策として行っているわけではないが予防としてEMの葉面散布を行っている。

全国EM技術交流会より抜粋引用